

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2019年12月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第610号

今年、大型台風が日本列島を襲って、千葉県や長野県で甚大な被害をもたらせた。一方では、世界の文明はエジプト・ナイル川流域などで安定した水資源を利用してきた地域で、農耕や牧畜をもとに発達してきた。ここでは干ばつ・飢饉対策としての水利用を考えてみる。

12月4日(水)のインターネットニュースで、アフガニスタン在住の中村医師が襲撃されたという情報が流された。ペシャワール会の中村哲さんという代表者の中村哲さんということであった。ペシャワール会ではアフガニスタン東部でのかんがい事業の支援を続け、2019年現在、1、6500ヘクタールの農地が造成、大きな砂漠の中に魔法のように緑地帯が出現して、現在進行形の事業として世界的にも注目されていた。この一連の事業で200万人の雇用を生み出したといわれており、中村さんの遺志を受け継いで、この事業(Project)がさらに発展することを願っている。

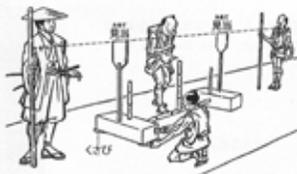
私は、大学でかんがい工学を専攻し、1980〜83年、東北タイの農業生産を豊かにする事業(JICA)の現地駐在員として、バンコックに滞在した。京都大学とタイ国・チュラロンコン大学とタイ政府灌漑庁(RID)との共同で、日

本の小規模ため池システムを東北タイの農業開発に当てることを試みるものであった。現在では、大規模、中規模、小規模のかんがい事業が入り乱れて実施されており、タイ国で一番貧しいといわれている東北タイ17万km²が豊かな農村に変貌している。

歴史の目からみた干ばつ・飢饉

関西セミナーハウス活動センター運営委員

鳥井 清司



資料提供：大塚才藏ネットワーク和歌山

兵庫県・東播地区のため池群をモデルにしていた。歴史的にみると、和歌山(1700年初頭)に建設された小田井用水、現在の橋本市から岩出市まで、総延長32.5km、1,000haあまりの水田が開発されて、10万人の住人が受益したといわれている。この事業の成功の元になったのが、大畑才蔵が工夫した水盛台(水準器、添付図)である。この水管理技術

の享保の改革の際、紀州から連れてきたかんがい技術者井沢弥惣兵衛によって、利根川から長さ60kmに及ぶ大用水路が完成し、水源となっていた見沼は干拓されて見沼田んぼとよばれ、約1200haの新田が開発され、新たに5、000石の増産になった。この一連の開発方式は、紀州流と呼ばれている。その後、見沼代用水と呼ばれ、各時代の要請に応じて施設の改修が行われ、現在では受益面積約15、400haの大事業となっている。

かんがい目的ではなく、洪水防止対策として、1704(元禄17)年大阪・大和川の付替えという国土の大改造事業が行われている。元々大和川は、生駒山と上町台地の間に存在した河内湖を通過して淀川に合流していた。南から北に向かつて流れてきた石川と大和川との合流地点(築船場)から西へまっすぐに、堺の海岸まで約14km、新しい大和川が掘削された。旧大和川跡や河内湖が干陸して、鴻池新田のようにいくつもの新田が開発されたが、砂地のため米作りには適さない土壌だったため、主に綿花が栽培された。「河内木綿」とよばれ、品質の良さから、全国に知られる名産品に成長している。司馬遼太郎の著作によれば、綿花栽培には大量の窒素肥料が必要であったため、北前船で北海道から運ばれてきた鱈の魚粉が使われ、上方で生産される木綿布、西宮の清酒、赤穂の塩、京都の絹織物など全国に配られ、これらの品は「下りもの」といつて重宝された。「くだらないものですが・・・」という言葉は上方から来た上等なものでない、という意味であったという。

我が国では、利用可能な土地があれば、かんがいの仕組みを工夫して、干ばつや飢饉に徹底的に備えてきた歴史があるように思われる。(元京都大学東南ア研連携教授)

関東活動センター

●共催プログラム

「災害におけるエキュメニカルな支援を考える」

共催：日本YMCA同盟、CWS Japan、日本キリスト教協議会
2019年11月28日(木)
日本キリスト教会館4FA会議室

2019年11月28日(木)、日本クリスチャンアカデミー・日本YMCA同盟、日本キリスト教協議会(NCCJ)・Church World Service Japan(CWSJ)の共催にて、報告会「災害におけるエキュメニカルな支援を考える」を開催した。参加者は日本クリスチャンアカデミー関東活動センターをはじめ全国各地の教会・キリスト教系団体やメディア関係者、計26名であった。2016年8月に熊本大地震支援をテーマとする同様の企画に次いで2回目となる報告会となった。

報告会のねらい…全国各地で被災者支援を続ける教会及びキリスト教諸団体のエキュメニカルな働き、現場から、それぞれの現状と課題について報告を共有する。また各地域での被災者の痛みといのち

に寄り添う働きから、その教訓を分かち合うと共に、ネットワーク支援や連携協力の経験から、今後のエキュメニカルな協働のあり方について共に考える。

プログラムの概要：第1部 各地での支援事例報告

【報告1】西日本豪雨災害支援「岡山キリスト災害支援室」について：吉岡創氏(岡山キリスト災害支援室／南輝・広江聖約キリスト教会牧師)・太田直宏氏(YMCAせとうち)

西日本豪雨災害の被災地である倉敷市真備町で日本国際飢餓対策機構を中心に支援が始まり、その支援を受け継ぐ形で「岡山キリスト災害支援室」が発足した。「岡キ災」は福音諸教会68の教会(独立系教会／ペンテコステ・カリストマ派教会)／日キ教団東中国

教区)、協力団体(YMCAせとうち/ティーンチャレンジ・ジャパン)が連携協働をしつつ、支援施設「まびくら」(まびに、くらしのぬくもりを)の略称)を拠点に活動を続けており、その支援は新見・佐賀・福島・長野など他の被災地支援に広がっている。

【報告2】九州地区の災害支援「全国キリスト災害支援連絡会」について：横田法路氏(九州キリスト災害支援センター/油山シャローム教会牧師)

NPO法人「九州キリスト災害支援センター」は、2016年4月の熊本並びに大分・九州全域に起きた大地震に対し、地域と教会を支援するために設立された。同センターは、熊本地震並びに九州北部豪雨支援の被災教会や被災者支援を諸教会・諸団体と連携しつつ、中長期的に行っていくことをミッションとしている。「九キ災」は「キリストの愛の精神に基づき、被災された方々の傍らに立たせていただきつつ、コミュニティの回復と形成に役立ちたいと願っている」。「九キ災」や「岡キ災」のネットワーク

を「全キ災」へ繋げるというニーズが高まっている。

【報告3】エキュメニカルな災害支援と「ACT」Japan Forum)について：牧由希子氏(CWS Japan/ACT Japan Forum事務局)

「ACT(Action by Churches Together) alliance」は、世界最大のプロテスタント諸教会・orthodox教会・キリスト教系組織で構成される超教派のグローバルな連合体(140カ国/155加盟教会・団体)で、NCCJとCWSJの2団体が加盟し、ACT Japan Forum(AJF)が発足した。AJFの起源は、東日本大震災の支援を機に発足した日本キリスト教協議会エキュメニカル震災対策室(NCCJ-JEDRO)に遡る。AJFの加盟団体・ビジョン(緊急人道支援/防災・減災)・役割に続き、台風15号19号災害支援の事例、災害支援を行う上での課題と学びについて報告がなされた。

第2部 登壇者と参加者の意見交換

第2部では、それぞれの災害現場からの教訓や支援の意

な災害支援に伴う諸課題(諸教会・諸団体間の関係性の希薄さや連携に繋がる対話や経験の不足等)も語られた。これらの課題は災害時にどまらず、日常的な関係性(違いを乗り越えられない)という「写し絵」的な問題でもある。地域を選ばぬ相次ぐ自然災害。「地球からのSOS」のような、「気候危機」によって全国各地で多くの方々が被災し、苦難を強いられている。このような時だからこそ、諸教会・諸団体のエキュメニカルな連携協力のニーズは高まる一方である。報告会で示された各所での動きや試みが、点と点が線となり、面となって繋がっていくことを願ってやまない。今年、1・17/阪神・淡路大震災から25周年また3・11/東日本大震災から9年目の年である。しかし、その二つの悲劇は「過去」の出来事となっている。人々の痛みに寄り添って共に生きようとするために連携する―それはその両方を経験し、支援に奔走した私自身の切なる祈りでもある。

(報告:日本YMCA同盟 大江 浩)

関西セミナーハウス活動センター

●2019年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
老いの日をいかに生き、支えるか(3)

「ひとり暮らしでも自宅で最期の日まで暮らせますか? 自宅で死ぬのは怖くないのですか?」

おかやま在宅クリニック院長 医学博士 岡山 容子さん
2019年9月21日(土)

歳を取り、体が弱ってくる
と、どんな死に方をするか
不安になる。とりわけ一人暮
らしの場合は不安が大きい。
そんな場合でも最後まで生を
全うする備えについて考えた



いと思ひ、講師に、在宅訪問
医として、数多くの終末期の
患者に立ち会ってこられた岡
山容子医師を招いた。同医師
は、在宅医療とは、死を迎え
るまでそこにある生を苦し
みなく、ご自分の住み慣れた
場所ですぐすことを支える医
療である、と言われる。

人は高齢になると、病院で
は治せない体の弱りを経験す
るようになり、やがて回復を
期待できない時期を迎え、口
から食物を取れなくなり、終
末期を迎える。余命
は終末期の少し手前
で、本人にも、家族
にも伝えられること
が、心の準備をする
上で望ましい。食物
が入らなくても五感
を大切にできるケア
は可能である。その

主のご降誕を
お祝い申し上げます。



は終末期の少し手前
で、本人にも、家族
にも伝えられること
が、心の準備をする
上で望ましい。食物
が入らなくても五感
を大切にできるケア
は可能である。その

段階では見守ることが大切で
ある。人が最後の日を迎える
ことは自然なことであり、悲
劇ではない。死は、肉体の苦
しみを安らかに終える日、安
らぎの日である。耳は最後ま
で聞こえており、呼吸停止後
のしばらくは大脳が生きてい
るので、亡くなった後も十分
に声をかけてお別れをするこ
とが大切である。

頃在宅医療を受けていれば、
一人暮らしでも最後まで自宅
で過ごし、平安の中に最期を
迎えることができる、と語ら
れた。
豊富な手許資料とスライド
を準備され、参加者の質問に
も丁寧に答えられた密度の濃
い会であった。高齢者の参加
が多くみられたが、医療、介
護関係の人の参加が少なかつ
たのが惜しまれる。

●2019年度「開発教育セミナー」第4回
「忘却を乗り越える
〜足尾鉍毒問題とフクシマ〜」

渡良瀬川研究会代表 菅井 益郎さん
国学院大学名誉教授
2019年10月26日(土)〜27日(日)

教科書の中では解決済みの
問題として語られる公害問題
の原点、足尾銅山鉍毒事件。
第1セッションでは、江戸期
に始まる足尾銅山の歴史を振

り返り、銅の大量生産と鉍毒
被害の深刻化、田中正造と鉍
毒反対運動について学んだ。
彼が残した「デンキ開ケテ、
世間暗夜トナレリ」の言葉は、
人権を置き去りにして発展し
た近代批判であり、私たちへ
問いでもある。

第2セッションでは、足尾
銅山から現在も鉍毒水が流れ
続けていること、足尾地区の
山深くに鉍滓の堆積場がいく
つも残っていること、震災や



洪水が起るたびに鉍毒流出
が危惧されていることなど、
足尾銅山鉍毒事件が現在も繼
続している問題であることを
理解した。それは、放射性廃
棄物や汚染水をため続けてい
る原発問題とも重なるもので
あった。
第3セッションは、原発事
故により突然生活の営みが絶
たれてしまった福島県飯館村
の写真を見て考えることから
始めた。足尾銅山鉍毒事件、
戦後の公害問題、東電福島原
発事故は、私たちの社会が人
間のくらしより経済成長を優
先した結果である。一人ひと
りが自分にできることを考
え、新しい暮らしを創造して
いく必要性を痛感した。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2019 年度聖書を読む講座 I**

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第 2 期)(全 10 回)

講 師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日 時：◎2020年1月14日、◎2月4日

火曜 18:30～20:00

会 場：早稲田奉仕園スコットホール 222

参加費：1,200 円/学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

■**2019 年度聖書を読む講座 II**

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読む—この時代の中で、聖書からのメッセージを読み解く—」

第 1 期「イエスの教えと生きざま～福音書から」

講 師：上林 順一郎さん

日 時：④2020年1月29日、⑤2月26日

水曜 14:00～16:00(全5回)

会 場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：1,000 円/学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

■**2019 年度 研究会**

「さらに豊かな礼拝のために～言葉を届けるトレーニング」(全 10 回)

講 師：友野 富美子さん (日本キリスト教団吉祥寺教会担任教師)

日 時：⑧2020年1月21日、⑨2月18日

火曜 18:00～20:00

会 場：日本基督教団巣鴨ときわ教会

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教団・アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教団会館 1 F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail: info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail: office@academy-kansai.org

参加費：1 回 1,200 円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2018 年度修学院フォーラム「社会」**

第 4 回「エネルギーを考える第 8 回」
 核に依存しない世界へ向けて」

講 師：近藤 恵さん (合同会社 AgroKraft 代表社員、環境エネルギー政策研究所福島事務所長)

牛山 泉さん (足利大学理事長、大学院特任教授)

日 時：2020年1月12日(日)16:00～13日(月祝)16:00

会 場：関西セミナーハウス

参加費：14,000 円 学生 5,000 円(1泊 3 食込)、京都市宿泊税 200 円別

■**2018 年度修学院フォーラム「いのち」**

第 3 回「禁煙とキモノのナツクな話」

講 師：高橋 裕子さん (京都大学医学部大学院特任教授、京都大学附属病院禁煙外来担当医)

日 時：2020年1月25日(土)

13:30～17:30

会 場：関西セミナーハウス

参加費：2,300 円 学生 1,000 円 (コーヒー付)

■**2018 年度修学院フォーラム「社会」**

第 5 回「北東アジアの地政学的変動とキリスト教徒の責任」

講 師：佐藤 優さん (作家・元外務省主任分析官)

日 時：2020年2月8日(土)

13:30～17:30

会 場：関西セミナーハウス

参加費：3,000 円 学生 500 円 (コーヒー付)

関西セミナーハウス

<修学院きらら山荘>

京都・比叡山の麓、緑豊かな中に、大小 6 会場、茶室、能舞台もあります。各種セミナー、学会、会議、合宿など多目的に。個人様のご宿泊にも気軽にご利用ください。

お問合せ ☎ 075-711-2115(代)

賛助会費・寄付金報告

2019年11月1日～11月30日 (順不同・敬称略)

◆**財団本部**

指定寄付金

野田 純一 1,000,000
 竹中 百合子 10,000,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

母の会 真崎みよ子 5,000
 神谷 伊勢男 5,000
 鈴木 伶子 3,000
 上林 順一郎 10,000
 根津 建 5,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

糸谷 泉 10,000
 福田 佳子 10,000
 松岡 俊彦 5,000
 中富 顕隆 2,500
 足立 素夫・光 3,000
 佐藤 恵理子 1,000
 中井 博雅 10,000

◆**神学生プログラム寄付金**

根津 建 5,000
 大澤 秀夫 5,000
 浦上 充 3,000
 川北 かおり 10,000
 松岡 俊彦 5,000
 中富 顕隆 2,500
 橋口 仁 2,000
 吉永 直子 5,000
 松井 直樹 5,000
 佐藤 恵理子 4,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

山崎 和明 5,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**
 もみじまつり寄付金

2019年10月1日～11月30日

八田 尚嘉 5,000
 川北 かおり 10,000
 中村 信博 10,000
 ひいらぎ税理士法人 20,000
 井尻 勤 5,000
 株式会社田中工務店 10,000
 八田 一郎 3,000
 シュペネマン クラウス 16,500
 横野 朝彦 5,000
 株式会社柴橋商会京都支店 10,000
 浅田 涼子 7,000
 竹中 百合子 1,500
 匿名 1,500
 喜多村 やよい 6,500
 町田 耕一 500
 株式会社三原工務店 10,000
 森 静子 5,000
 牛尾 宣夫 10,000
 長谷川 義紘 10,000
 佐野 千枝子 1,000
 小久保 正 5,000
 鳥井 清司 5,500
 白子 宗令 10,000
 伊藤 宗邦 10,000
 中村泰洋園 10,000
 久保田 展史 10,000
 小林 哲夫 10,000
 社会福祉法人修光学園 5,000
 松本 嘉一 5,000
 島田 恒 5,000

以上感謝をもってご報告申し上げます。